

# ごみ収集について

## 一般質問



高橋佐代子  
(21 政会)

**問** ①年末のごみ収集について、市民からできればもう1回多く収集してもらいたいとの声を聞く。また、年末はいつもクリーンセンターが混み合う。待ち時間が長く、入口が坂になっているので危ないという市民もある。

今後、年末ごみの受け入れに対し、市民サービスの向上のために考えていることは。

②加西市では、ごみ減量化促進対策協議会を設置し、各種団体の代表や公募委員の声を行政に反映してきたが、最近全く開催されていない。開催されていない理由と今

後については。

③体の不自由な方の家へのふれあい収集を実施してもらいたいが、近隣市の状況は。

④市長選挙のマニフェストにある指定ごみ袋の値下げの予定は。

**答** ①年末のごみ収集について、今年は12月31日にごみターミナル収集を計画しており、多くの方にご利用いただきたいと考えています。クリーンセンターへの持ち込みごみ特別開場日について、平成23年度は受け入れ態勢を見直し、車の流れがスムーズになり、県道が渋滞することはありませんでした。計量前の待ち時間を今後さらに短縮できるよう、検討する考えです。

②平成21年度以降は開催されていません。ごみ減量を目的とした多くの会議に参加し、減量化の促

進には取り組んでいます。加西市独自の案件については、市民からの貴重なご意見等を拝聴するために、必要に応じて開催する考えです。

③家庭ごみをターミナルへ持っていけない高齢者や障がい者などの一人世帯を対象とした戸別収集は小野市、三木市で実施されています。支援は大切なことと考えていますので、調査、検討したいと思います。

④ごみ問題について、大きな枠組みで考えながら、この問題も解決したいと思います。

### ■その他の質問項目

- ・広報広聴について
- ・指定管理者制度について

# 県の特別指定区域制度の活用を

## 一般質問



松尾 幸宏  
(清風会・誠真会)

**問** 市長施政方針で、加西市に住んで、働き、結婚して子供を育てるための定住化の促進に必要な施策として、平成24年度から市の農業振興地域整備計画の積極的な見直しを行い、それを受けて特別指定区域の地縁者住宅区域の拡大を進めることや、新たな新規居住者の住宅区域の整備計画策定への支援を実施すること等を挙げている。そこで5万人都市の再生に向けて、加西の土地利用計画について質問する。

①土地利用計画の中の特別指定区域について、加西市での指定状況

と利用実績は。また、今後新たな導入計画はあるのか。

②24年度は5年に1度の農振農用地の見直しの時期と聞く。思い切った見直しが必要だが、可能なのか。

新宅を建てたくても建てられない、沿道で商売をしたいが農地のためにできない、工場を増築したいができない等の要望がある。ぜひ市民の要望にこたえられるよう一層の努力をお願いする。

**答** ①加西市では、平成19年に市内104町で地縁者住宅の区域指定をいたしました。現在までの利用実績について、建築戸数は合計88件となっています。さらに、平成23年5月には、宇仁地区で特別指定区域制度を活用し、新たに新規居住者のための住宅区域の区域指定を行いました。現在新規居住者の実績はありません。また、事業所の土地利用につ

きましては、平成21年4月に5地区において、既存事業所の拡張区域の指定を行いました。現在のところ実績は1件です。さらに2カ所の既存事業所の拡張区域の指定を目指し、現在手続を進めているところです。

②農振地域見直しについては、制約が非常に大きく、思い切った変更は難しいかもしれませんが、農業振興地域制度の枠組みのなかで地域の要望や農業とのバランスを図りながら、特別指定区域の指定も勘案し、関係部署が連携しながら、人口増対策に配慮していきたいと考えています。

### ■その他の質問項目

- ・北条鉄道の再活性化
- ・戦争遺産 鶉野飛行場跡地の有効利用について